

一般社団法人日本薬学生連盟

2021 年度執行部立候補申請書

立候補者氏名	仲尾 友里
立候補する役職	地域連携委員長
大学/学部/学科	東邦大学/薬学部/薬学科
学年	3 年生
所属	地域連携委員会、外務部、公衆衛生委員会、関東支部 協力団体 : Yaqoo
日本薬学生連盟での活動経歴	2018 年 入会 2019 年 地域連携委員会 所属 2020 年 外務部、公衆衛生委員会、関東支部 所属 地域連携新歓スタッフ 西日本新歓スタッフ 東日本薬フェススタッフ
立候補動機	日本全国の薬学生を繋ぐ架け橋となるという地域連携委員会の活動内容に意義を感じ、さらに管轄する地域(北海道、北陸、中四国)を盛り上げられると思ったからです。
問題点と改善案	全ての活動がオンライン開催となった今年度は、地域連携委員会の大きな特徴となる支部のない北海道、北陸、中四国に出向き活動するということができず、新歓、薬フェスを地域合同で開催しました。スタッフとして活動する中で私が問題だと感じた点は、地域連携委員会が管轄する地域からの参加者が極めて少ないということです。その原因は地域連携スタッフの中に管轄地域の大学に在学する学生が少ないということにあると思いますが、地域連携委員会に興味を持ってもらうにはまず新歓行事に多くの学生に参加してもらう他に方法はありません。そのためには、新歓、薬フェスの広報期間には管轄地域の学生に重点を置いて広報をする必要があります。具体的な方法としては、SNS を効率的に活用する、管轄地域の協力団体や大学に協力してもらうなどです。 来年度もオンラインに限定した活動となる可能性も視野に入れながら、管轄地域の大学に在学するスタッフを集め、オフラインでの活動が解禁されたときには多くの学生が集まり一緒に楽しめるようにします。
活動計画	〈オフラインの場合〉 4～5 月 北海道・北陸・中四国 新歓 9 月 未来合宿 10～11 月 北海道・北陸・中四国 薬学生フェスティバル 3 月 年会 〈オンラインの場合〉 4～5 月 地域連携新歓 9 月 学会を身近に感じる会(仮) 10～11 月 地域連携薬学生フェスティバル 3 月 年会

所信

私は、大学1年生の時に日本薬学生連盟に入会し、レギュラー会員として様々な企画に参加してきました。イベントに参加していく中で、スタッフとして参加している先輩や同級生がとても楽しそうに活動しているのを見て自分も一緒に活動したいと思うようになり、活動内容に興味を持った地域連携委員会に入りました。

スタッフとなった1年目は自分から積極的に活動に参加することができず、先輩方の活動を見ていることしかできませんでした。この経験は、新たに入るスタッフの経験や活動したい内容を詳細に把握し、サポートする必要があると考えるきっかけになりました。他部署等での経験が豊富なスタッフであれば、積極的に発言し行動に移すことができますが、スタッフ等の経験がなければ個別にサポートし、活動内容の詳細やツールの使い方等を学んでもらう必要があります。私は委員長として、そのようなサポートを部員に対し精力的に行いたいです。

2年目である今年度は、新歓をはじめとし、スタッフとしての経験をすることができました。活動していく中で、まず1番に地域連携委員会の管轄する地域から参加する学生が少ないという印象を受けました。私は、連盟でいう”地域を盛り上げる”ということは、参加人数をより多く集めることであると解釈しています。そのため次年度の地域連携委員会は、集客力の向上を目指します。

最後に、私は現在の地域連携委員会は地域連携委員会としての役割を十分に果たせていないと考えています。管轄地域からの参加者が少なければ地域連携委員会として企画を行う意味がありません。支部のない地域から参加者を募ることは簡単なことではありませんが、スタッフ同士で知恵を出し合い協力しながら、本来の地域連携委員会のあり方に近づけるよう努力します。そして地域連携委員会の必要性を多くの人に認めてもらうことができれば、それが私の本望です。